



TITLE:

米洲行日誌(7)

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 米洲行日誌(7). 天界 1937, 18(200): 57-60

ISSUE DATE:

1937-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167573>

RIGHT:

米 洲 行 日 誌 (7)

山 本 一 清

1937年5月22日(土曜日)

公私用務を帯びて、ラルコ氏は15時半の飛行機により至急リマへ赴かれることとなつた。

吾々は午後ワンチャコに行き、日食時刻に於ける太陽の方向や高さについてラルコ館の實際上から之を略測した。

5月23日(日曜日)

午前中、倉庫の中の器械箱のうち、活動寫眞器と、口径75耗の望遠鏡とを取り出し、假りに組み立てを始める。

午後は、日曜なのを幸ひ、日高氏等の案内で吾々は郊外の農園をドライブし尙ほ、ワマン寺院の祭禮の賑はひなどを見た。

藤村代理公使より來電。ラルコ氏は暫くリマ滞在につき、今後は一切ラルコ氏の代理として日高氏の盡力と厚意に信頼し、名譽領事館内に於いて萬事の便宜を得るやうとの通信であつた。

5月24日(月曜日)

11時着の第1便でリマから早坂氏飛來、藤村代理公使の旨を傳へられた。同じ此の飛行機で、日高氏は又、チクラヨに行かれ、ワンチャコの觀測點の家主ギクトル・ラルコ氏に面會、觀測の必要上より、かの家屋に多少の手入れを加へる件につき承諾を求め夕刻歸來された。柴田堀井兩君は太陽黒點觀測を開始。

吾々は15時ワンチャコに行き、再考の結果、シロスタト据え付け計畫の一部變更をなし、愈々前岡氏(大工)は土木工作に着手することとなつた。我々は太陽の位置を精密に見届けて、18時歸宿。

5月25日(火曜日)

今日は倉庫内のシロスタトを取り出し、10時から之を臨時にワンチャコへ運搬し、假の觀測臺の上に据え付けて、昨日の設計換へをチェックした。シロスタト、活動寫眞器、經緯儀等の臺の、煉瓦積みが始められる。天氣は連日良好である。

5月26日(水曜日)

柴田堀井兩君は今朝シロスタト鏡面の鍍銀をなし、それからトラックを督して全部の器械をワンチャコに運搬した。今夜から日本人會員數名宿直される。

13時、ペル1觀測隊の先發としてデアンドラス中佐とモスタホ博士とがリマより飛來されたので、自分は之れを飛行場に迎え、午後は兩氏を案内してワンチャコへ行つた。直ちにデアンドラス中佐と赤道儀の据え付け臺の位置や高さを協議の上、即刻そのアドベ積みを始めさせることとした。

今夜から自分は子午線室で經緯儀によりタイムの觀測を始める。22時曇りとなり中止。

5月27日(木曜日)

珍らしく朝7時に起床。早坂氏と共にサラベリ港に行く、今日は汽船“マンタロ”號によつてペル1觀測隊と其の器械とが全部到着するので、其れを出迎えるためである。8時過、船は無事に入港投錨したが、波が荒いので、人や器械の積み下しは皆ヤンチによることとなり、10時漸く終了。ロタルデ大佐、ロセンブラト教授、ト1ラ、ダギラ兩學生、スワレス少佐其他の軍人等々、皆元氣よく棧橋に上陸。一同、汽車や自動車に分乗して、トルヒヨに來着したのは正午に近かつた。

自分はサラベリ港から歸つて、暫く活動寫眞器械の新設計に腐心したが、15時からワンチャコに行き、諸工作の監督をした。夕食後、タイムの觀測を始めたが、高度指示標の誤りを見付け、修理中、21時から空は曇つたので、止むなく中止。

5月28日(金曜日)

10時から一同ワンチャコ行き。ペル1隊の赤道儀の荷を解き、手入れをするので、自分は殆んど終日之れの監督をした。形は小さいが、しかし昨年出來たばかりの眞に新しい赤道儀で、リマに到着後、誰も手に觸れなかつたものを、今始めて荷箱から取り出すといふのであるから、吾々觀測家にとつては、喜悅と共に、多少の興奮なきを得ない。ロセンブラト教授と共に、此の器械の自働裝置の鎖の巻き方等につき研究した。

一方に於いて、自分は子午線室内の經緯儀の手入れをなし、晴夜を利用して

11星を観測し、タイムと方位とを決定した。

5月29日(土曜日)

今日は、どうしたことが、全日曇り!! 10時には例の如く一同ワンチャコに行き、土木工作の監督をした。ベル1隊の赤道儀臺は高さ4米半の堂々たるものが完成したので、明日は愈々器械据え付けの筈。

20時半、トルヒヨに歸り、自分は設計決定の活動寫眞器械を、工作のため前岡氏に渡した。

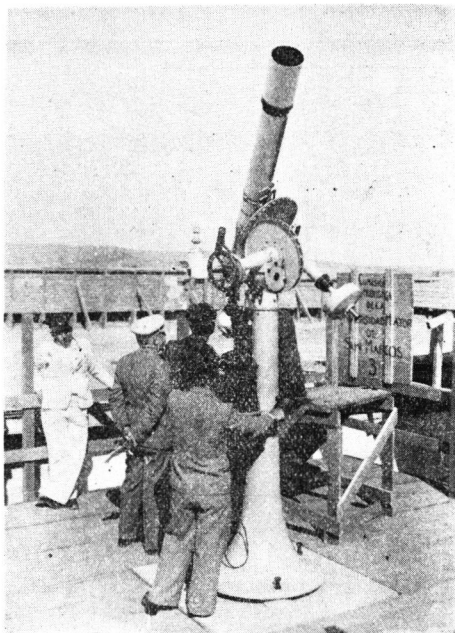
5月30日(日曜日)

休日だが、約束により一同9時にワンチャコに行き、協力して赤道儀の据え付けに着手した。新しい器械の創造的努力なので愉快である。午後には大略の形が出来上つたので、太陽の觀望など、ベル1隊員にやつて見せたが、夜になつて曇つたため、星は見られなかつた。觀測露臺や階段等も、明日の朝には出来上がる筈。

5月31日(月曜日)

朝9時からワンチャコ行き。昨日の続きで、赤道儀の据え付けは美しく完了した。

11時、ベル1隊長ガルシヤ博士とガマラ教授とが、リマからトルヒヨに飛來した。13時から自分は此のベル1隊員等に招か



太陽黒點觀測中のヘル1觀測隊の
主要機口徑13吋赤道儀 (6月初)

れて、ロストンボスで午餐を饗せられ、其の後、打ち連れてワンチャコに案内した。ガルシヤ博士等は赤道儀の堂々たる姿を見て喜ぶこと限りなし。日本隊のオフィシナにもやつて來て、長い間話し込まれた。柴田堀井兩君は今日からシ1ロスタト應用の10米カメラで太陽黒點の寫眞撮影を始める。

夜は良く晴れたので、自分は19時からタイム観測、20時からは緯度の観測をした。デアンデラス中佐、ロタルデ大佐、ガルシヤ博士等は交も々々参観に来られる。——子午線観測後、赤道儀で南天の星座や火星木星等を観望し、夜半歸宿。

6月1日(火曜日)

天氣悪く、午後少しく太陽の姿を見たのみ、夜も全曇。

例の如く、朝10時には一同ワンチャコに行つたが、子午線観測の計算などをしたのみ。19時歸宿。

6月2日(水曜日)

天氣は良くない。皆少々悲觀の態。誰か、“6月になると、やはり此の地方も曇るのださうな”と言つたやうなことを聞いて來て、一同の心を暗くする。——しかし今更どうすることも出来ない。日食の日が迫つて來るので、今日、自分は日秘兩観測隊のために具體的な観測プログラムを作製し、一同に渡した。19時、歸宿。

6月3日(木曜日)

朝曇り、午後晴れ、日没時から又曇り、幾らか良い方で、所謂“日高式”の定型に入つたやうでもあるが、油斷はならない。ロタルデ大佐は、“天氣は下弦の頃が最悪であるが、新月の頃には良くなる見込み”などと吞氣なことを言つてゐるが、自分としては今や内外に責任の重い立場にあるので心配である。——萬一天氣悪の場合には、少くとも自分の擔當する活動寫眞器だけを持つて飛行機上から日食観測をやらうかとも考へる。

10時から例の如くワンチャコに行く。今日からペル1隊とト1ラ、ダビラ兩君に赤道儀で太陽の黒點を見ることを教へる。午後、ガルシヤ、ロセンブラト兩教授が日本隊の事務室に話しに來たので、主としてアインスタイン効果の觀測術に關する諸問題について自分の意見を述べた。

今日、リマから寫眞師佐藤兵吉氏が飛行機で來着した。器械を四つ持つて來て、日食の撮影をする希望であるといふ。熱心なアマチュアである。

昨日作製した日秘兩観測隊のプログラムの立派な印刷ビラが出來て來たので早速室内室外に掲示する。